

巻 頭 言

富山県高等学校教育研究会
情報部会長 谷内 祥訓

富山県高等学校教育研究会情報部会の会員各位におかれましては、日頃から本県高等学校情報教育ならびに本部会活動にご尽力をいただいていることに対し、心から感謝を申し上げます。また、本部会の事業に際し富山県教育委員会県立学校課を始め、関係機関からもご指導をいただいていることに対し、厚くお礼を申し上げます。

さて、新しい学習指導要領の共通教科情報については、これまでの「社会と情報」「情報の科学」から、「情報Ⅰ」「情報Ⅱ」となりました。このうち、導入部分の「社会と情報」と「情報Ⅰ」を比較しますと、「社会と情報」では、「情報化社会の概念、情報、情報機器の適切な活用、情報化社会に積極的に参画する態度など、基本的な態度の育成をする」ことがうたわれていましたが、「情報Ⅰ」においては、「情報の見方・考え方を踏まえ、情報技術を活用した問題の発見・解決につなげる」というように、主体的・探究的な態度に一層踏み込んだものといえます。

ところで、情報教育は幅広く小・中・高等学校の発達段階に応じ、系統性をもって展開されるべきものであり、小・中・高等学校の教員はそれぞれ異なる校種の情報教育の内容を理解するなど、校種間の連携を図ることも重要であると考えます。

一例を述べますと、小学校では2020年度からプログラミング教育が必修化となることから、文部科学省、総務省、経済産業省ではその実施に向けた機運の醸成を目指すため、2019年9月を「未来の学びプログラミング教育推進月間」と設定し、現在公開している実践事例等に加え、企業が会社訪問等を受け入れてスペシャル授業を実施したり、企業が動画の作成や配信をしたりしてプログラミング体験を展開するなど、「プログラミングが社会でどう活用されているか」を理解させていくための取り組みが計画されています。

高教研情報部会においても、こうした異校種の状況にアンテナを高くしながら理解することにより、児童生徒の校種間の接続が一層円滑になると考えております。

今年度11月に実施した研究発表大会では八尾高校 森田 里香先生、高岡南高校 安川 正洋先生の研究発表、高岡高校 多賀 誠志先生、水橋高校 中西 純先生の報告、金沢星稜大学 佐藤 幸江先生の講演が行われ、大変有意義な研修となりました。心から感謝を申し上げます。これらの内容は今後各学校での指導改善に生かすなど、情報教育の一層の充実を図るための糸口になることを期待しております。

関係各位におかれましては、本部会の一層の充実、発展のためのご理解、ご協力を引き続きお願い申し上げます。